

歴代誌第二1章 7-12 節 「主に願うもの」

1A 願うものに現れる心の姿

2A 御心の成ることを求めるソロモン

1B 神の約束

2B 約束への服従

3B 服従するための力

3A 御心を知る

1B キリストに似た者

2B 一致

3B 神の栄光と臨在

本文

歴代誌第二、1章を開いてください。今週から、私たちは歴代誌第二を読み始めます。午後に、1章から5章までを読みたいと思いますが、今朝は1章 7-12 節に注目してください。

7 その夜、神がソロモンに現われて、彼に仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」8 ソロモンは神に言った。「あなたは私の父ダビデに大いなる恵みを施されましたが、今度は父に代わって私を王とされました。9 そこで今、神、主よ、私の父ダビデになされたあなたの約束を堅く守ってください。あなたは、地のちりのようにおびたしい民の上に、私を王とされたからです。10 今、知恵と知識を私に下さい。そうすれば、私はこの民の前にはいりいたします。さもなければ、だれに、この大いなる、あなたの民をさばくことができますでしょうか。」11 神はソロモンに仰せられた。「そのようなことがあなたの心にあり、あなたが富をも、財宝をも、誉れをも、あなたを憎む者たちのいのちをも求めず、さらに長寿をも求めず、むしろ、私があなたを立てて私の民の王としたその民をさばくことができるようにと、自分のために知恵と知識を求めたので、12 その知恵と知識とはあなたのものとなった。そのうえ、私はあなたの前の、また後の王たちにもないほどの富と財宝と誉れとをあなたに与えよう。」

私たちは前回、ダビデがソロモンに王位を継承するところを読みました。そしてダビデは長寿を全うしてこの世を去りました。ソロモンが王となりました。歴代誌第二は、ソロモンが王になる時に、彼がギブオンで祭壇にいけにえを捧げているところから始まります。そこで主がソロモンに尋ねられたのです。「あなたに何を与えようか。願え。」とても広い約束ですね。何でも良いから尋ねなさい、それをかなえてあげよう、と主は言われます。

1A 願うものに現れる心の姿

皆さんはいかがでしょうか？ソロモンと同じように、「あなたに何を与えようか。願え。」と言われたら、何を願うでしょうか？少し考えてください、神が何でもかなえてくださるなら何を願うでしょうか？「神は、そんなことは言うはずがない。」とお考えかもしれませんが、いいえ、イエス様は弟子たちに、同じよう

な広い約束を与えられました。「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。(ヨハネ 14:13)」いかがでしょうか？

ユーチューブ動画で、とてもかわいいビデオがあります。6,7 歳でしょうか、女の子の誕生日をお母さんが録っています。プレゼントを開けなさいと言います。ディズニーのキャラクターの入った、ピンク色のバックパックです。そこに入っているのは、ディズニーのアニメの DVD や、スナック、そして T シャツがいくつかあります。T シャツにもディズニーのキャラクターの絵がプリントアウトされています。そして、お母さんが尋ねます。「今日はあなたの誕生日よ。どこに行きたい？」と聞きます。そして、「どこに行ってもいいのよ。」と聞くと、この子は「ディズニーランド」と答えました。「じゃあ、行きましょう。」とお母さんは言います。女の子は、「じゃあ、行きます！」と言います。でも、まだ本気じゃないと思っているようなので、「本当に行くのよ。嘘じゃなくて、本気よ。」とお母さんが言いますと、女の子は「嘘でしょう！」と言って、うれし泣きを始めました！大泣きしているのですが、嬉しいのです。生まれて初めてのディズニーランドだったのでしょ。

私たちはいろいろな制約の中で生きています。なので、自分の願いがかなえられることを抑えています。けれども、もしその制約がなくなった時に、何を願うでしょうか？実は、それが自分の本当の心の姿、自分の霊的状态を映し出します。「いや、私はそんなこと願わなかった」と偽って、隠したくなるものでしたか？家、車、宝くじ、美女を自分の彼女にする、あるいは格好良くて、学歴もあって、お金もたくさんもっている男の人をゲットする、とっていたでしょうか？それとも、「イエス様に今すぐにも会いたい。」と思ったでしょうか？イエス様の証し人として、もっと自分が変えられたいと思ったでしょうか？私たちの心の願いが、今、自分のいる霊的な場所を示しています。

ヤコブが、こうした私たちの願いを次のように説明しています。「あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。(ヤコブ 4:2-3)」私たちの心が安らかではない時、または、私たちが他の人と争いをしている時は必ずと言ってよいほど、祈っていません。祈って、願わないのです。そのために、うらやんで、自分の手で取ろうとするのです。それで、周りの人と不和が起こります。けれども、正直に自分の願っていることを言い表せば、そのまま聞かれるかと言えば、そうでもありません。なぜなら、それは自分の快樂のために使おうと思っていたからです。

2A 御心の成ることを求めるソロモン

ではどうすれば、ソロモンのように祈りが聞かれるのでしょうか。8-9 節をもう一度読みます。

1B 神の約束

8 ソロモンは神に言った。「あなたは私の父ダビデに大いなる恵みを施されましたが、今度は父に代わって私を王とされました。9 そこで今、神、主よ、私の父ダビデになされたあなたの約束を堅く守っ

てください。あなたは、地のちりのようにおびたしい民の上に、私を王とされたからです。

ソロモンは、神の御心を求めていました。神が自分に約束してくださったことに目を留めていました。それは、父ダビデに神がかつて自分について語られた言葉です。「見よ。あなたにひとりの子が生まれる。彼は穏やかな人になり、わたしは、彼に安息を与えて、回りのすべての敵に煩わされないようにする。彼の名がソロモンと呼ばれるのはそのためである。彼の世に、わたしはイスラエルに平和と平穩を与えよう。彼がわたしの名のために家を建てる。彼はわたしにとって子となり、わたしは彼にとって父となる。わたしはイスラエルの上に彼の王座をとこしえまでも堅く立てる。』(1歴代 22:9-10)」父ダビデを通して、神によって自分がイスラエルの王となるという約束が与えられていたのです。そのことが自分にどのように実現するのか、悩んでいました。

2B 約束への服従

多くの人が、自分の願いや思いを先にして、それから神の御心を求めようとします。例えば、自分が進学したいと思っています。それが御心かどうかを思い知ろうとします。けれども、それは間違いです。すべての自分の願い、自分の考えを、主の前であきらめるのです。そして、「主よ、今、私はここにいます。あなたが願われていることを、行ってくださいますように。」と言います。主に自分のすべてを明け渡し、ということを経験した人もお話ししました。「これをやらなければいけない。」という条件を、これからの自分の人生に付けてはいけません。自分はもはや自分のものではなく、主のものだからです。この方が願われることを自分が行い、この方が考えておられることを自分も考えます。

「それでは、今の仕事や学業をやめなければいけないのか？」という疑問を抱いた人がいるかもしれませんが、いいえ、そういうことはありません。パウロが、コリントにある教会の人々に、似たような悩みを持っている人々にこう答えました。「ただ、おのおのが、主からいただいた分に応じ、また神がおのおのをお召しになったときのままの状態です。私は、すべての教会で、このように指導しています。(1コリント 7:17)」

主に自分を明け渡して、自分の願いをあきらめて、そして新たに、「自分は何をすれば良いですか？」と尋ねます。そうすると、多くの場合、主は、「あなたがいるところに留まりなさい。」と命じられます。今の仕事をしている人は、その仕事が神の召しておられるところ、主の呼ばれているところであることを知ります。仕事は、もはや自分の生活の糧を得るところでなくなり、主の御心を行うところとなります。その職場で神の栄光を現すのだ、という神の御心を知るのです。意味が変わるのです。けれども、もしかしたら主が、「あなたは、わたしが示したところに行きなさい。」と言われることがあるかもしれません。そうしたら動けばよいのです。

ある人は、もっと教会に時間を費やしたいと神から願いが与えられるでしょう。私たちの愛する兄弟は、不定期に与えられる仕事をやめました。夜勤だけれども、一定の時間帯に働ける仕事に変えました。またある兄弟は、平日に行われる仕事においても教会関連の奉仕に携わることができるよう、サラリーマン生活には戻らないと仰っておられました。それも、主の御心です。ある兄弟は、自分の

仕事の中で、御霊の導きでお客さんに伝道したいという思いが与えられました。これも御心です。そして、教会で多くの時間を過ごすことだけが神の召しではありません。「もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。(1テモテ 5:8)」と使徒パウロは指導しています。ですから、病気の家族の看病のために時間を費やすことは、大きな神のお仕事です。このようにして、召されているところで生活します。

そして、自分を主に明け渡すのみならず、その後も絶えず神を求めます。常に、自分が主の御心に自分を従わせているか、確かめます。ダビデがソロモンに、こうも語りました。「ただ、主があなたに思慮と分別を与えて、あなたをイスラエルの上に任命し、あなたの神、主の律法を守らせてくださるよう(1歴代 22:12)」主の律法を守り、そのための分別と思慮を与えられるように、と願っています。これは日々、主の前に出て、御言葉に接し、今の自分の姿を照らしていただき、そして主に正していただくことです。毎朝、主のすばらしさ、主の慈しみに触れていくことです。これを行っている人は、神の御心が、「どっちなんだろう？」と、おみくじや占いのように求めなくてよいのです。むしろ、明らかに示された神の命令があって、それに服従します。ある牧師が、こうツイッターでつぶやいていました。「神さまのみこころを求める時に、先に思いがあって、それを確かめるためにみことばを捜すのは危険だ。毎日、普通に読んでいる御言葉で神は示しているから。」

3B 服従するための力

それからソロモンは次のように、祈りました。「10 今、知恵と知識を私に下さい。そうすれば、私はこの民の前にはいりいたします。さもなければ、だれに、この大いなる、あなたの民をさばくことができましょうか。」ソロモンは、主が自分を何に召しているか知っていました。イスラエルの王として、民を治めることが神の召し、神の命令であることを知っていました。その命令を守り行うために、その成し遂げる能力をソロモンは求めているのです。そしてこの類いの祈りは、必ず聞かれるのです。

主が命じておられること、主がこれを行ないなさいと呼び出しておられること、これらを行うために自分のうちに力がない、知恵がない、という悩みがあれば、それを主に申し上げるのです。これを、「御心にかなった祈り」と言います。使徒ヨハネは、こう言いました。「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでになんかえられたと知るので。(1ヨハネ 5:14-15)」

主が命じておられるならば、主ご自身が責任を負ってくださいます。その御心を成し遂げる能力、また知恵、また勇気を与えてくださいます。私たちは、自分の前に与えられた課題があまりにも大きくて、圧倒されそうになります。けれども、だからこそイエス様は、「わたしの名によって、何でも祈りなさい。」と言われたのです。主の御心を行うために、どんなことでもわたしはしてあげるよ、という誘いです。「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。(ヤコブ 1:6)」

そして、主はソロモンに、このように答えられました。「11・・・そのようなことがあなたの心にあり、あなたが富をも、財宝をも、誉れをも、あなたを憎む者たちのいのちをも求めず、さらに長寿をも求めず、むしろ、私があるあなたを立てて私の民の王としたその民をさばくことができるようにと、自分のために知恵と知識を求めたので、12 その知恵と知識とはあなたのものとなった。そのうえ、私はあなたの前の、また後の王たちにもないほどの富と財宝と誉れとをあなたに与えよう。」主の御心を求めたので、主は加えて、富も誉れも与えると約束されました。

これは、イエス様が約束されたことと同じですね。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。(マタイ 6:33)」主にすべてを明け渡したら、自分の願っていることを失ってしまうのではないかという恐れがあります。いいえ、むしろそれを失いたくないと思っただけがみつければ、それを失います。主のためにそれを失えば、むしろ、それを得ます。大事なものは、「加えて」与えられることです。

3A 御心を知る

そして大事なことは、何が自分にとっての御心であるか？ということでもあります。

1B キリストに似た者

神の第一の御心は、罪が清められることです。「見よ。主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。(イザヤ 59:1-2)」ご自分のどんな祈りも願いも、自分の罪があれば、神との間には仕切りがあり、どんなことがあってもその願いは聞いていただけません。祈りを神が聞いてくださる、その関係に入るのは、罪を赦していただき、清めていただく必要があります。

イエス・キリストが、あなたの罪のために死んでくださいました。その流した血潮は、あなたの罪を赦す力を持っており、あなたを罪から清める力を持っています。その御心を行ってください。「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。(1ヨハネ 1:9)」

そして罪の清めを受けた者は、罪から離れ、キリストに似た者になることが、神の御心です。自分がキリスト者として生きている目的は、とてもシンプル、単純です。「すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。(エペソ 1:4)」キリストあって選ばれた者は、御前で聖く、傷のない者になるために選ばれました。そして、「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。(ローマ 8:29)」とあります。御子と同じ姿になることが、神の御心です。

だから、周囲が変化することを祈る前に、自分が変わることを祈るべきですね。ソロモンも、民が自

分によく従うように祈ったのではなく、自分のために知恵と知識を求めました。自分が民をふさわしく治めることができるよう祈ったのです。私は以前は、多くの日本の人たちが救われるように、日本にリバイバルが起こるように。」と祈ったことを思い出します。けれども、その祈りを捧げているうちに、だんだん平安がなくなってきました。「たくさんの人が救われても、ちょっと待てよ、救われても、何もその人たちの生活が変わらなければ、それは御心にはなっていないだろうか？俺自身が、救われた生活、贖われた生活をどれだけ送っているのだろうか？」と思い始めました。自分自身が、神の御心、失われた人々を救うために、用いられる器として整えてください、という祈りに変わっていきました。つまり、自分がどれだけ神と心をつなげることができるか、が大きな課題です。そして一つ心になれば、イエス様は失われた人を救うことを目的としているのですから、人々が救われるのです。

2B 一致

そして、一つになること、一致することも神の御心です。イエス様は、このように祈られました。「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも願います。それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。(ヨハネ 17:20-21)」イエス様は、父なる神と一つでられました。イエスは、神の御子として父の言われたことだけを行い、父の行なわれることだけを行なわれました。同じように、私たちがキリストの言われることだけを行い、キリストの行なわれることだけを行うことによって、私たちは一つになります。

午後礼拝で学びますが、ソロモンが知恵と知識が与えられるよう祈り、そして神殿建設を行ないました。それで神殿が建てられた後に、レビ人たちが讚美を歌い、ラッパを吹き鳴らした時に、こうなっていました。「まるでひとりでもあるかのように一致して歌声を響かせ、主を賛美し、ほめたたえた。(5:13)」ソロモンに与えられた知恵によって、一人一人が主にあって一つになることができました。

私たちは、もし自己実現として自分がキリストに似た者になるという個人のみで生活設計をしたら、それは神の御心を損ないます。必ず、キリストの体の中における自分を知って、それで御心を求めるのです。ある牧師がこう言いました。「神が教会を運び私たち一人ひとりを通して群れを建て上げわざを進めていることを実践しているクリスチャンと、ただ個人の信仰や修養のように考えているクリスチャンとでは、生き方が違う。」

3B 神の栄光と臨在

そして神はご自分の栄光を現すことを御心としておられます。ソロモンの神殿では、この讚美が捧げられた後に、栄光の雲が宮に満ちて、祭司たちが中に入れなくなりました。人の働きや動きは見えなくなり、ただ主だけに人々の注目が集まる時、御心が成し遂げられます。

私たちは、この目的のためなら、主がどんなことでも祈りを聞いてくださいます。自分の願いではなく、神の願いを果たすためなら、神がそれを完成させるための力を与えてくださいます。